

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成27年度)

2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(3/7)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
関西イノベーション国際戦略総合特区 (大阪府等)	正	4.3	4.3 進捗度 ・特区支援制度活用による医薬品・医療機器関連設備投資額 105% ・特区支援制度活用による医薬品・医療機器の薬事申請数 118% ・関西のリチウムイオン電池等新型蓄電池の輸出額 107% 等	4.5 規制の特例等 ・医薬品・医療機器等の輸出入手続きの電子化・簡素化 等 財政支援等 ・国際戦略総合特区設備等投資促進税制 10件 等 地域独自の取組 ・「大阪バイオファンド」によるベンチャー支援 等	4.2	<p>・総合特区制度を活用して、様々な事業を展開しており、制度の意義を生かしている。また、支援体制がよく機能している。</p> <p>・医薬品・医療機器関連設備投資額、医薬品・医療機器の薬事申請数等で着実な成果を上げている。各事業のプラットフォームの形成、規制緩和の活用等個別事業についての取組が成果につながっていると判断する。</p> <p>・日本を代表する多くの自治体の連合体の業績としては物足りない。取組内容に特徴が乏しく、特区としてのアピール力に欠ける。特区に参画している自治体間の一層の連携を求めたい。</p>

※「正」とは正評価、「準」とは準評価を意味する。